

日時：2023年10月28日（土）10:50-12:30

会場：明治大学和泉図書館ホール

明治大学図書館情報学研究会・

明治大学図書館 講演会

ある図書館人生の今

大滝 則忠（元国立国会図書館長）

●要旨

人類の記憶を伝える社会装置としての図書館。半世紀以上を図書館活動と共に歩んだ人生のこれまでと今後について語る。近代の図書館活動は、19世紀中葉から20世紀末までの150年間、先人の努力によって社会の後押しを受けながら着実な発展を遂げてきた。そして、20世紀末からのデジタル情報社会の急激な進展により、今後のあり方には抜本的な変革が求められている。図書館員としての通算40年、図書館情報学の教壇での6年、そして今なお現役の図書館利用者としての実体験から、図書館活動の今後について、伝統的なものと新規に取り組むもの、変わらないものと変わるべきもの、変わらざるをえないものについて考えたい。

●発表者略歴

1944年山形県川西町生まれ。県立米沢興譲館高校から東京教育大学文学部に進学。法律政治学を専攻して卒業し、1968年国立国会図書館に就職。2004年副館長として退職するまでの36年余の間、うち利用者対応の前線業務に従事したのは通算10年（この間、1975年から2年間をニューヨーク市コロンビア大学東アジア図書館員として出向、1981年から3年間を立教大学学校・社会教育講座でレファレンス業務科目担当の非常勤）で、その余は前線活動を支える裏方として勤務。40歳から施設整備の仕事にもかかわる。特に約20年を要した関西館プロジェクトの初期の構想段階から実際の2002年開館までの各段階に、企画（事業構想）・会計（予算化）・準備室長（事業具体化）・総務部長（開館実務総括）の持ち場から一貫して関係した。2006年から6年間、東京農業大学学術情報課程で図書館情報学の教壇に立つ。2012年から4年間、第15代国立国会図書館長。2017年から4年間、公益社団法人米沢有為会（育英団体）代表理事会長。2018年から学校法人大東文化学園理事（現職）。就職直後に出会った「図書館には自由に読めない本も存在する」の実態解明が時々の本務のかたわら一生涯を通じる課題となる。現在、『近代日本筆禍（発禁）図書総目録』（仮題）の編纂に取り組む。座右銘は「近きより」。

申込先：shisyo@meiji.ac.jp（学生以外の方の申込締切：

10月20日（金）※事前申込が必要です。参加無料）

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~shisyo/>